

株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月に開催
配当金受領株主確定日	毎年6月30日
	中間配当金を支払うときは毎年12月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711（通話料無料）
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

お知らせ

当社の情報誌ATOMニュースが
リニューアルしました。



<http://www.atomlt.com/>よりPDFでご覧になれますので、アクセスして下さい。

住まいの飾り職人
ATOM

アトムリビンテック株式会社

〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL 03(3876)0600(大代表)

PRINTED WITH
SOY INK

R100
古紙リサイクル配合率100%再生紙製本用

IR NEWS

ATOM

第53期 報告書

(平成18年7月1日～平成19年6月30日)

住まいの飾り職人
ATOM

アトムリビンテック株式会社



経営理念

「住まいの飾り職人」が作り出す
独創的な商品で、
社会の発展に貢献します

社訓

「独り歩きのできる商品づくり」

社是

「創意・誠実・進取」



創業者は江戸指物(鏡台、茶箆筒、長火鉢等)の金具職人、即ち繊細な装飾と微妙な細工の技術を要する銑職でした。

社訓は、創業者の遺した言葉に基づくものであります。

「独り歩きのできる商品」とは、販売に際して、巧言令色や誇大な表現を添えずとも「ひと目でその価値が相手に伝わる商品」を指します。

当社の社是は、ご覧の通りですが、企画開発を旨とする企業として「創意・進取」は元より、独り歩きのできる商品であればこそ、販売に際して「誠実」が貫き得ると考えております。

また社名の冒頭に冠した「アトム」は設立以来の商標であり、内装金物の分野で、業歴相応の認知と浸透を得ております。

以下に続く「リビンテック」には、ご説明の要も無い「リビングテック」の他に、正しく「技術に生きる＝リブ・イン・テック」の意味が籠められており、併もその技術とは、当社がファブレスメーカーであるだけに、単なるハードウェアのみならず、ソフトウェアをも包含する「ノウハウのメーカー」であり続けたいという思いを表しております。

▶ 株主の皆様へ

「商いの原点」に立ち返り、
収益にこだわった事業展開を推進いたします。



第53期の取り組みと業績について
お聞かせください。

まず経営環境からお話いたしますと、当社が位置する住宅関連業界は、新設住宅着工戸数において持家に持ち直しの兆しが見られる中、マンションを中心とした分譲住宅ならびに貸家が全体を牽引する形で堅調に推移いたしました。その一方で、金属製品や石油化学製品における原材料価格の高騰に加え、企業間競争がさらに激化する傾向を示し、厳しい経営環境が続きました。

こうした状況のもと、当社は、第53期を基点とする第六次中期経営計画に基づき、商品戦略、市場戦略、情報システム戦略を三つの柱に、事業活動を展開いたしました。

商品戦略につきましては、引き続き主力製品における海外調達の拡充を推進いたしました。ここ数年、原価低減策の一環として主力商品の海外調達に取り組んできましたが、第53期において当社製品の海外調達比率は13%となり順調に推移しております。また、商品本部および販売部門における発注管理体制の再構築を図り、国内生産においてもさらなる合理化を図り、定期的かつ継続的な原価低減に向けた購買システムの基盤づくりを強化いたしました。商品面では、「CASARL (カサール)」シリーズの新アイテム「ウォールスタイル」の投入、「快適提案品シリーズ」のラインナップ強化を行うなど、一層のシェア拡大を目指しました。さらに、2007年5月14日に施行された消費生活

用製品安全法に対応すべく、現有する試験機に加え、複合試験機の導入を図るなど、次世代に向けた商品開発を積極的かつ体系的に展開いたしました。

市場戦略については、「デマンドメーカー」(家具の設計・注文をインターネット上で行えるオンデマンド型システム)のBtoB市場でのシェア拡大とともに、エンドユーザーを視野に入れたBtoC市場での普及活動に注力しつつ、次のステップに向けた基盤づくりに取り組んでまいりました。

情報システム戦略においては、新たな「WEB受発注システム」の導入による業務運営がスタートし、お客様の利便性向上と受発注業務の効率化を推進いたしました。また、引き続き、インターネットを介した「オンラインショップ」の充実にも取り組みました。



代表取締役社長 高橋良一



▶ 株主の皆様へ

こうした取り組みの結果、第53期の売上高は86億26百万円（前年同期比103.6%）と厳しい環境の中での増収となりました。また、経常利益は1億51百万円（前年同期比28.4%）、当期純利益につきましては77百万円（前年同期比-%）となりました。



第53期の業績をどのように評価されていますか。

期初に想定した以上の原材料価格の高騰により、売上目標は達成したものの、利益目標については一歩およばないという残念な結果となりました。こうした状況に対し、漫然と手をこまねいていたわけではありません。市場価格の改定をお客様に要請するとともに、製造方法や原材料の見直し、販売費及び一般管理費の意識的な削減、管理体制の強化による商品在庫の圧縮など、あらゆる手だてを講じてまいりました。こうした取り組みの結果、来期（第54期）において収益の改善を図る目途が立った点については評価しています。



第六次中期経営計画の手応えはいかがですか。

第六次中期経営計画は、既存事業と新規事業の有機的結合によって新市場を確立し、「総合インテリア企業」を目指すことを目標にしています。そのシンボルとなるのが、2007年1月22日にオープンした「アトムCSタワー」です。当社では、「アトムCSタワー」を総合ショールーム&新しい住空間デザインの情報発信拠点として位置づけ、業界の垣根を越えてご利用いただきたいと願っております。

オープン初年度となる第53期においては、「アトムCSタワー」の認知度向上と当社事業の「見える化」を推進することを目的

に、より多くのお客様にお使いいただくためのプロモーション活動を積極的に展開いたしました。おかげさまで多くの団体や企業のイベントやセミナーのスペースとしてご利用いただき、これまで接点を持ち得なかった施設関係や店舗関係のお客様、業界のキーマンの方々とのご縁ができ、今後の当社にとって大きな資産になったと確信いたしております。

こうしたことから、第六次中期経営計画で謳った「総合インテリア企業」を目指す取り組みは着実に前進しており、確かな手応えを感じています。



中国現地法人のその後についてはいかがですか。

2006年12月7日、上海に当社初の海外現地法人「上海阿童木建材商貿有限公司」を設立いたしました。2007年4月に税務等の諸手続きを、同年6月には貿易等の諸手続きを完了し、本格稼働いたしました。中国へ進出した日系企業との取引や上海並びに大連の販売代理店を通じた中国国内での販売など、新しい商流を確立しつつあり、着実に成果をあげております。中でも、当社がこれまでの商品調達ルートに加え、自前のルートを確保したことはコスト削減にとって大きな役割を果たすものと期待しております。



来期（第54期）の経営スローガンについてお聞かせください。

当社では「商いの原点に立ち返る」を第54期の経営スローガンに掲げ、収益性の指標となる売上高総利益率にこだわった経営を推進したいと考えています。

当社は、1903年の創業以来、創業者の教えである「独り歩き

のできる商品を提供する」ことを目指し、「より良い金物を自ら考え、自ら普及させていく」ことを企業理念に掲げてまいりました。こうした企業理念を具現化するため、「創意・誠実・進取」の精神を社是として、企画・開発・販売を兼ねるファブレス（工場を持たない）メーカーを標榜し、新しい時代に応える事業展開を積極的に推し進めてまいりました。

つまり、当社にとって、従来からの金物事業も、現在、積極的に推進しているオンデマンド事業も、同じ「商い」という延長線上にあると考えています。当社は「古くて新しい会社」と言い続けてきましたが、創業以来の「商い」の原点を大切に、新規事業においても収益をあげていくことが当社本来の姿であると考えています。



第54期の具体的な取り組みについてお聞かせください。

第54期におきましては、一層の原価低減、業務の合理化に向けた諸施策を推進し、売上高総利益の改善に向けた取り組みを強化してまいります。また、中国現地法人を活用した現地生産および現地販売の基盤を構築するとともに、日本国内への供給体制の確立を図り、さらなる海外および国内シェアの拡大を目指してまいります。一方、環境マネジメントシステムISO14001の認証取得後、鋭意、進めております環境基準に準拠した製品づくりを強化するとともに、消費生活用製品安全法に対応した安全で安心できる製品づくりについても積極的に推進してまいります。

今年は、毎年9月に開催してまいりました「個展」（住まいづくりとATOMとの出逢い展）を「アトムCSタワー」で開催すべく準備を進めております。当社といたしましては、これを機に、「アトムCSタワー」において当社事業の「見える化」を進めると

ともに、当社とお客様との「交流の場」としても定着させていきたいと考えています。

こうした取り組みを通じて、第54期は「商いの原点」にこだわって、将来にわたり、恒常的に利益を創出し続ける新たなビジネスモデルの確立を目指してまいります。



株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

当社では、株主の皆様への利益還元を経営の重要な課題として認識し、安定的な経営基盤の確保と株主資本利益率の向上に努めるとともに、配当につきましても積極的な配当を継続して行うことを基本にいたしております。当期は上記の方針に基づき、1株につき年間20円の普通配当を実施させていただきました。なお、第54期以降におきましても20円の普通配当維持を目指し、経営基盤の強化に努めてまいります。

今後も当社は、株主価値のさらなる向上を目指し、「商いの原点に立ち返って」、収益にこだわった事業展開を全社一丸となって推進してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き当社の経営方針に対するご理解とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

2007年9月

代表取締役社長 高橋良一

「総合インテリア企業」を具現化する

アトムCSタワー [徹底] 解剖

アトムCSタワーは、当社の総合ショールームとして、新しい住空間デザインの情報発信拠点として、またアトムリビンテックと皆様との交流の場としての性格と機能を併せ持っています。オープンから半年を経過した現在も、日々進化する「アトムCSタワー」の「今」をご紹介します。

Welcome

CSタワー全体のテーマであるLOHASをイメージした緑あふれるエントランスが、ゆとりと安らぎを演出します。その一角に、インテリアや建築をはじめとする幅広いジャンルの洋書やおしゃれなインテリア小物を取りそろえ、皆様のお越しをお待ちしております。

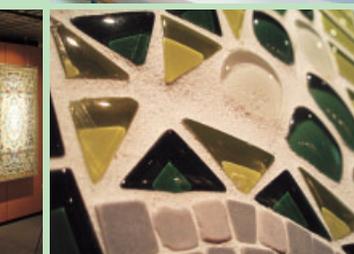


エントランス正面に配置されたインテリアグリーンが、訪れる人々を和ませてくれます。



Showroom

2階から4階は内装金物のショールーム。ご好評をいただいております「CASARL(カサル)」シリーズや「快適提案品」シリーズの商品をお手にとってご覧いただくことができます。地下1階には施設や店舗関係のお客様のご要望にお応えするため、タイル素材の商品を展示しています。



納得いただけるまで、見て、ふれて、感じていただける商品ディスプレイが好評です。



Collaboration

当社と関連の深い団体や企業の皆様様が、セミナーやイベントにお使いいただけるよう、8階のオープンギャラリーと地下1階のマルチプルスタジオに、大型スクリーンを完備したフリースペースをご用意いたしました。



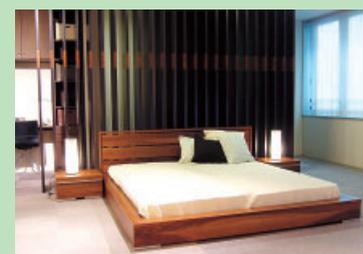
お客様の使用目的に応じて柔軟な対応が可能なフリースペースをご用意いたしました。

Living Space Design

5階は快適な住空間を実現したイメージフロアです。「総合インテリア企業」を目指す当社が提案する、リビング、キッチン、ベッドルームを体験していただくことができます。



アトムリビンテックは、快適性とデザイン性、利便性が三位一体となった住空間の提供を目指しています。



Demand Maker

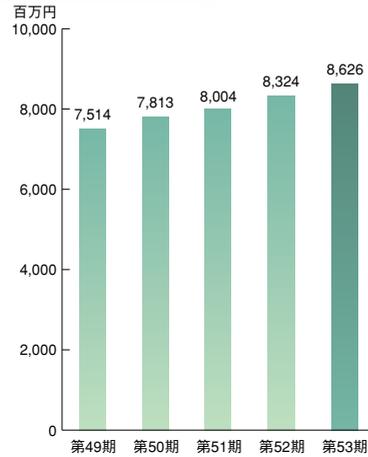
7階は当社オンデマンド事業の中核となるデマンドメーカーのショールーム。パソコン上で好みの家具をデザインできるほか、実際にデマンドメーカーでつくった家具をご覧いただくことができます。



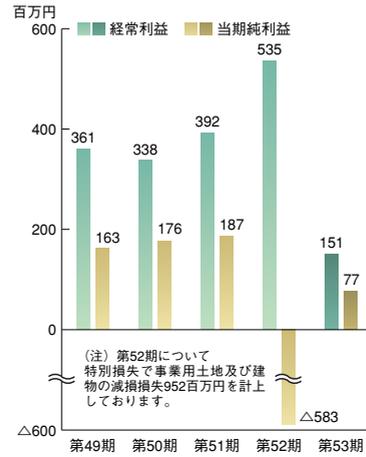
コンピュータの画面だけでは伝えきれないデマンドメーカーの魅力を感じていただけます。

業績の推移

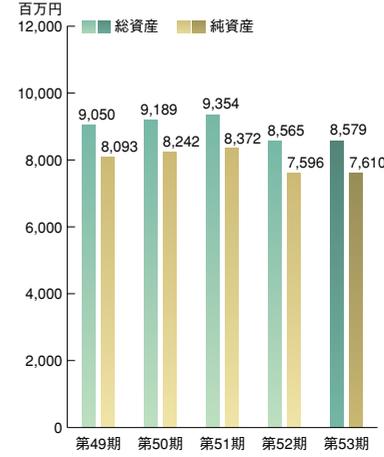
売上高



経常利益／当期純利益



総資産／純資産



主要経営指標

	第49期	第50期	第51期	第52期	第53期
売上高営業利益率 (%)	3.6	3.2	3.5	3.4	1.1
総資本営業利益率〔ROA〕 (%)	3.0	2.7	3.0	3.1	1.1
自己資本利益率〔ROE〕 (%)	2.0	2.2	2.3	△7.3	1.0
流動比率 (%)	654.1	769.3	804.2	805.7	712.4
固定比率 (%)	60.7	54.4	51.6	43.2	52.9
自己資本比率 (%)	89.4	89.7	89.5	88.7	88.7
1株当たり純資産額 (円)	1,969.2	2,005.6	2,038.1	1,850.6	1,854.0
1株当たり当期純利益又は純損失 (△) (円)	37.4	40.5	44.2	△142.1	18.9
1株当たり配当額 (円)	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
配当性向 (%)	53.4	49.3	45.3	—	106.0

※1. 1株当たり配当額
 第49期については、普通配当17円50銭に加えて、創業100周年記念配当2円50銭としております。
 第50期については、普通配当17円50銭に加えて、ATOMブランド誕生50周年記念配当2円50銭としております。
 第51期については、普通配当17円50銭に加えて、株式会社法人改組50周年記念配当2円50銭としております。

※2. 第52期の当期純損失について
 特別損失で事業用土地及び建物の減損損失952百万円を計上しております。

※3. 第52期の配当性向について
 当期純損失であるため算定しておりません。

財務諸表

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別	前期 (自平成17年7月1日 至平成18年6月30日)	当期 (自平成18年7月1日 至平成19年6月30日)
売上高		8,324,644	8,626,194
売上原価		6,153,234	6,462,708
売上総利益		2,171,410	2,163,486
販売費及び一般管理費		1,892,321	2,072,511
営業利益		279,088	90,975
営業外収益		256,662	69,072
受取利息・配当金		18,697	14,479
有価証券売却益		205,556	11,274
有価証券償還益		2,450	5,369
仕入割引		25,810	31,618
その他の営業外収益		4,146	6,330
営業外費用		—	8,047
有価証券償還損		—	1,978
子会社設立費用		—	6,069
経常利益		535,751	151,999
特別利益		1,395	4,332
貸倒引当金戻入益		1,395	4,332
特別損失		953,877	13,329
固定資産除却損		899	6,129
減損損失		952,978	—
地中障害物撤去損		—	7,200
税引前当期純利益又は純損失 (△)		△ 416,730	143,002
法人税、住民税及び事業税		214,653	86,509
法人税等調整額		△ 48,006	△ 20,979
当期純利益又は純損失 (△)		△ 583,377	77,472



▶▶ Point 減価償却費 (販売費及び一般管理費)
 平成19年度税制改正に伴い、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に規定する減価償却の方法によっております。なお、この変更による営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響は軽微です。

▶▶ Point 地中障害物撤去損
 平成19年1月22日にオープンした「アトムCSタワー（港区新橋・旧垂吐夢金物館跡地）」建設時の地中障害物撤去費用です。

▶ 財務諸表

貸借対照表

科目	期別 前期 (平成18年 6月30日現在)	当期 (平成19年 6月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	5,281,620	4,549,877
現金及び預金	1,773,975	1,427,533
受取手形	1,177,256	1,146,158
売掛金	1,089,365	1,178,034
有価証券	478,608	99,690
商品	678,617	598,343
貯蔵品	—	16,536
前渡金	37,620	500
前払費用	38,000	22,472
繰延税金資産	4,418	21,827
未収消費税等	—	33,648
その他	12,839	8,860
貸倒引当金	△ 9,081	△ 3,725
固定資産	3,283,888	4,029,517
有形固定資産	2,344,472	2,650,542
建築物	705,482	1,352,754
構築物	1,793	1,618
車輛及び運搬具	511	339
工具器具及び備品	241,966	268,062
土地	1,027,767	1,027,767
建設仮勘定	366,950	—
無形固定資産	108,310	79,260
ソフトウェア	75,992	74,739
電話加入権	4,521	4,521
ソフトウェア仮勘定	27,797	—
投資その他の資産	831,105	1,299,714
投資有価証券	577,191	1,053,802
関係会社株式	—	10,000
出資金	1,200	1,200
長期貸付金	26,677	26,368
破産更生債権等	6,302	2,752
長期前払費用	1,325	332
繰延税金資産	163,580	154,353
敷金保証金	61,237	53,699
貸倒引当金	△ 6,409	△ 2,794
資産合計	8,565,508	8,579,395

▶▶ Point 現金及び預金

現金及び預金は、前期末に比べ346百万円の減少となりました。
主な理由はキャッシュ・フローのコメントをご参照ください。

▶▶ Point 貯蔵品

総合カタログの刊行によるものです。

▶▶ Point 建物、建設仮勘定

平成19年1月22日にオープンした「アトムCSタワー（港区新橋・旧垂吐夢金物館跡地）」の建設費用です。

▶▶ Point 関係会社株式

中国上海市に当社全額出資子会社「上海阿童木建材商貿有限公司」を設立しました。

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別 前期 (平成18年 6月30日現在)	当期 (平成19年 6月30日現在)
(負債の部)		
流動負債	655,515	638,667
買掛金	410,914	437,905
未払金	71,747	103,711
未払費用	31,877	33,579
未払法人税等	51,840	21,539
未払消費税等	15,363	5,467
前受金	35,953	—
預り金	27,818	28,464
役員賞与引当金	10,000	8,000
固定負債	313,306	330,021
退職給付引当金	169,960	177,426
役員退職慰労引当金	142,345	151,595
その他	1,000	1,000
負債合計	968,821	968,689
(純資産の部)		
株主資本	7,572,852	7,568,225
資本金	300,745	300,745
資本剰余金	273,245	273,245
資本準備金	273,245	273,245
利益剰余金	6,998,862	6,994,235
利益準備金	43,189	43,189
その他利益剰余金	6,955,673	6,951,046
土地圧縮積立金	81,916	81,916
別途積立金	6,000,000	6,000,000
繰越利益剰余金	873,757	869,130
評価・換算差額等	23,833	42,480
その他有価証券評価差額金	23,833	42,480
純資産合計	7,596,686	7,610,706
負債・純資産合計	8,565,508	8,579,395

株主資本等
変動計算書

(自平成18年7月1日
至平成19年6月30日)

(単位：千円未満切捨て)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金 その他利益剰余金			株主資本 合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計		土地圧縮 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		利益剰余金 合計
平成18年6月30日 残高	300,745	273,245	273,245	43,189	81,916	6,000,000	873,757	6,998,862	7,572,852
事業年度中の変動額									
剰余金の配当							△ 41,050	△ 41,050	△ 41,050
剰余金の配当（中間配当額）							△ 41,050	△ 41,050	△ 41,050
当期純利益							77,472	77,472	77,472
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）									
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	—	△ 4,627	△ 4,627	△ 4,627
平成19年6月30日 残高	300,745	273,245	273,245	43,189	81,916	6,000,000	869,130	6,994,235	7,568,225

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
平成18年6月30日 残高	23,833	23,833	7,596,686
事業年度中の変動額			
剰余金の配当			△ 41,050
剰余金の配当（中間配当額）			△ 41,050
当期純利益			77,472
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）	18,646	18,646	18,646
事業年度中の変動額合計	18,646	18,646	14,019
平成19年6月30日 残高	42,480	42,480	7,610,706

▶ キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別 前期 (自平成17年7月1日 至平成18年6月30日)	当期 (自平成18年7月1日 至平成19年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	126,139	292,212
投資活動によるキャッシュ・フロー	178,512	△ 556,956
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 87,662	△ 81,698
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	216,989	△ 346,442
現金及び現金同等物の期首残高	1,556,985	1,773,975
現金及び現金同等物の期末残高	1,773,975	1,427,533

▶▶ Point 営業活動によるキャッシュ・フロー

資金流出ではない減価償却費213百万円があったこと、増収による売上債権の増加54百万円などを反映したものです。

▶▶ Point 投資活動によるキャッシュ・フロー

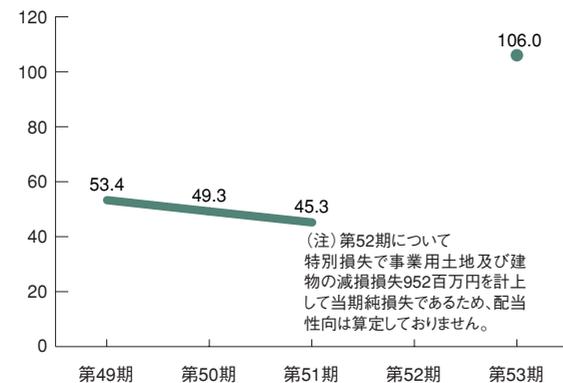
有形固定資産の取得による支出492百万円、投資有価証券の取得による支出439百万円があった一方で、有価証券の償還による収入450百万円などがありました。

▶▶ Point 財務活動によるキャッシュ・フロー

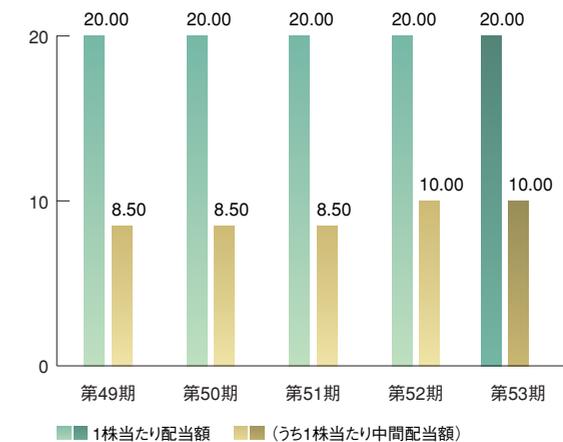
配当金の支払のため、81百万円の資金を使用しました。

▶ 配当状況

● 配当性向 (%)



● 1株当たり配当金 (円)



▶ 重要な会計方針 (当期)

① 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式……移動平均法による原価法
 その他有価証券 時価のあるもの

…期末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
 時価のないもの
 …移動平均法による原価法

② たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品 ……移動平均法による原価法
 貯蔵品 ……最終仕入原価法による原価法

③ 固定資産の減価償却方法

有形固定資産 ……①平成19年3月31日以前に取得したもの

…旧定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物 (附属設備を除く) については、旧定額法を採用しております。

②平成19年4月1日以降に取得したもの

…定率法を採用しております。

ただし、建物 (附属設備を除く) については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 6～50年

工具器具及び備品 2～20年

無形固定資産 ……定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間 (5年) に基づく定額法を採用しております。

長期前払費用 ……定額法を採用しております。

④ 引当金の計上基準

貸倒引当金 ……売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

退職給付引当金 ……従業員の退職給付に備えるため、退職金規程に基づく自己都合による期末退職金要支給額から特定退職金共済及び適格退職年金の年金資産を控除した額を計上しております。

役員賞与引当金 ……役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金 ……役員の退職慰労金の支払に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

⑤ リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

⑥ 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

▶ 会計方針の変更 (当期)

(有形固定資産の減価償却の方法)

当事業年度より、平成19年度の税制改正に伴い、平成19年4月1日以降取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に規定する減価償却の方法によっております。

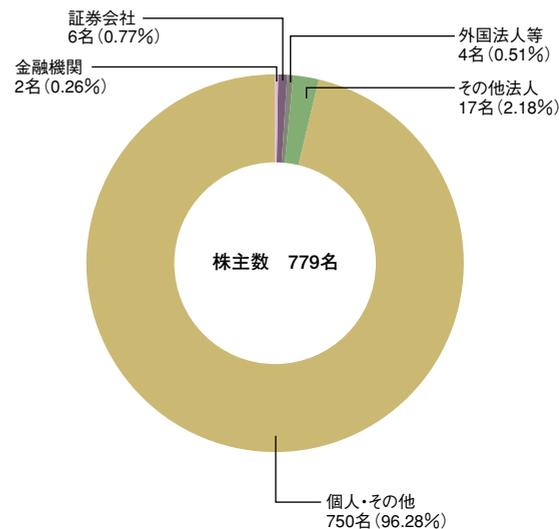
なお、この変更による営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響は軽微であります。

▶ 株式の状況 (平成19年6月30日現在)

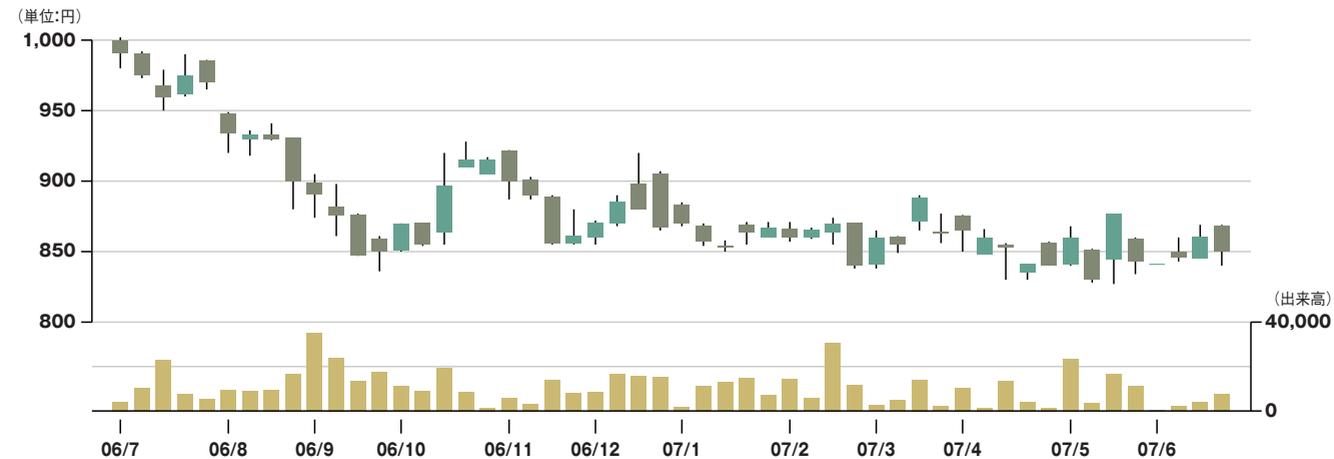
発行可能株式総数 15,420,000株
 発行済株式の総数 4,105,000株
 株主数 779名
 大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
高橋不動産株式会社	985,440	24.00
高橋良一	505,000	12.30
アトムリビンテック従業員持株会	276,860	6.74
高橋快一郎	174,000	4.23
アトムリビンテック取引先持株会	168,100	4.09
高橋寿子	148,000	3.60
高橋良男	120,000	2.92
バンクオブニューヨーク・シーエムクライ アントアカウンツイーアイエスジー	108,000	2.63
大塚弥寿男	92,000	2.24
佐藤俊夫	82,200	2.00

● 株主の所有者別分布状況 (平成19年6月30日現在)



▶ 株価および出来高の推移



▶ 会社概要 (平成19年6月30日現在)

商号 アトムリビンテック株式会社
 創業 明治36年
 設立 昭和29年10月
 事業内容 家具用金物・建具用金物・陳列用金物等、
 住まいの金物全般の企画・開発・販売
 主要取引銀行 株式会社みずほ銀行
 株式会社三菱東京UFJ銀行
 従業員数 120名(嘱託60名・パート20名含まず)

▶ 役員 (平成19年6月30日現在)

代表取締役社長 高橋 良一
 取締役 吉倉 良治
 取締役 後藤 厚
 取締役 神原 誠
 取締役 根本 博
 常勤監査役 橋本 政義
 監査役 岸田 充雄

▶ ホームページも是非ご覧ください。

<http://www.atomlt.com/>

企業・財務情報をはじめ商品情報・オンラインショップなど、
 様々なコンテンツをご用意しております。ぜひご覧ください。

▶ 事業所一覧 (平成19年6月30日現在)

本社 〒110-8680 東京都台東区入谷1丁目27番4号 TEL 03-3876-0600
ATOM-CDセンター(商品本部)
 〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎町1336-4 TEL 048-922-5551
札幌営業所
 〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東3丁目28番32号
 井門札幌東ビル1F TEL 011-748-3113
前橋営業所
 〒371-0805 群馬県前橋市南町3丁目72番7号 TEL 027-223-2651
広島営業所
 〒733-0031 広島県広島市西区観音町16番地9 TEL 082-291-4235
アトムCSタワー
 〒105-0004 東京都港区新橋4丁目31番5号
 オンデマンド事業部 TEL 03-3437-3673
 ショップ&ショールーム 亜吐夢金物館 TEL 03-3437-3440
 ※平成19年1月22日よりオープン
ATOM住まいの金物ギャラリー大阪事業所
 〒564-0052 大阪府吹田市広芝18番地5 TEL 06-6821-7281

▶ 関連会社 (平成19年6月30日現在)

上海阿童木建材商貿有限公司(中華人民共和国)

